

平成 26 年度第 2 回血液検査機器技術委員会議事録

1. 開催日時：平成 26 年 10 月 10 日（金）14:50～16:10
2. 開催場所：神戸国際会議場 5F 504+505 号室
3. 出席者（敬称略）：渡邊、三島、岡野、岸、久保田、坂東、藤巻、加藤、小林、近藤、齋藤、田中、原田、小田、坂西、福田、岩村
4. 配布資料
 - 資料 No.1：血液検査機器技術委員会委員リスト
 - 資料 No.2：平成 26 年度第 1 回血液検査機器技術委員会議事録
 - 資料 No.3：第 5 回血液検査機器技術セミナー企画（案）
 - 資料 No.4：第 2・3 回血液検査機器技術セミナーアンケート結果
4. 議題：
 - 1) 報告事項
 - (1) 新委員長、副委員長、委員の紹介
渡邊委員長、三島副委員長、岩村委員より新任の挨拶があった。
 - 2) 審議事項
 - (1) 第 4 回血液検査機器技術セミナーの反省と今後の対策
 - (ア)参加者 170 名（事前：104、当日 48、発表者・委員：18）参加者名簿を企業に開示可能かどうかを検討する。
 - (イ)アンケート集計の概要について久保田委員より報告（別添参照）
 - (ウ)各委員より以下の意見があった。
 - ① 内容が盛り沢山過ぎたので、テクニカル的な内容だけに絞っても良い。
 - ② 同一 4 症例以外に典型的な症例があっても良かった。
 - ③ 同一症例での発表であり、参加者は機器選択時の参考になったのではないか。
 - ④ 大型機と小型機のメーカーの発表時間は同じでなくても良かったのではないか。
 - ⑤ 異常検体でのスキヤッタグラムやヒストグラムの見方を一覧表にまとめて示した方が良かったのではないか。➡ 一覧表を作成し、HP に掲載する。岸委員が雛形を作成する。HP に掲載するかどうかは、岸委員の作成した雛形を見てから各メーカーに判断して頂く。
 - ⑥ 第 2 回と今回の内容をピットホール対策集として冊子体にしてはどうか。➡ カラーでは印刷費が掛るので、学会 HP に上記一覧表や第 2 回を含め最終版資料をアップする。（HP 容量について学会事務局に確認が必要）
 - ⑦ 第 2 回と今回の内容は機器の機能進歩に応じて継続的な見直しが必要である。
 - ⑧ 学会 HP が分かり難い。➡ 改善を学会へ強く要望する。
 - ⑨ 資料を事前にダウンロードして持参するのは大変ではないか。また、資

料の HP への掲載はもう少し早い方が良い。

(2) 第 5 回血液検査機器技術セミナーの企画について

(ア)岡野委員より資料 3 に基づき説明があった。

(イ)各委員より以下のような意見があった。

① 発表施設が大学病院に偏り過ぎているので、大学病院、市中病院、救急病院、検査センターなど規模や内容が異なる施設から発表してもらった方がよい。システム会社や血球計数機メーカーから推薦してもらってはどうか。

② システムといっても漠然としているので、ポイントを絞った方が良いのではないか。

(ウ)上記意見を踏まえ、再度、岡野委員と常名委員を中心に内容と発表施設について検討し、メール等により各委員へ報告していただくこととなった。異常検体を見逃さないための工夫をしている施設があれば、メーカーから岡野委員、常名委員に紹介をお願いする。

(3) 第 6 回血液検査機器技術セミナーの企画および担当者について

凝固のピットホール（測定不能な検体、試料の取扱い）に関する内容で開催する。三島、藤巻委員を中心に検討し、次回委員会に案を提出することとなった。

(4) 来年度以降の委員について

現在の委員の委嘱期間は途中から加わった委員も含め今年度末までである。来年 4 月の春季セミナー時に開催される委員会を新委員で開催するには今年中には新メンバーを確定しておく必要がある。今後の本委員会活動が先細りしないように継続するには現状程度の委員数が最低必要である。委員の再任は可能であるが、学会員であることが条件となっている。委員長または事務局より各委員に継続の意向を確認し、必要であれば新たな委員についても人選を進める。

(5) その他

過去の機器セミナーの資料が HP から削除されているので、これも掲載していただくように学会へ要望する。

以上